

会報



公益財団法人 松前国際友好財団

2015.9.1



奨学者国内研修旅行（2015年6月28日 広島平和記念公園にて）

奨学者からのたより

- ① 現在の職業・地位等
 - ② 本財団が日本へ招聘した年度
 - ③ 受入研究機関と指導教官（ただし、招聘した当時のデータ）
- 編集・翻訳責任：松前国際友好財団



イーヤ・イゴレブナ・
タシュリコワ・ブシュケビッチ博士
(ベラルーシ)

Dr. Iya Igorevna TASHLYKOVA-
BUSHKEVICH (Belarus)

- ①ベラルーシ情報科学無線エレクトロニクス大学 物理学科 准教授
- ②2008年度来日
- ③茨城大学 工学部機械工学科 教授 伊藤吾朗

2015年 5月29日

松前国際友好財団創立35周年記念シンポジウムの講演録をいただきました。ありがとうございます。講演録の内容は大変素晴らしく、財団の背景、将来への展望、および財団の活動について深く理解することができました。あらためて、松前国際友好財団の創立35周年をお祝い申し上げます。

私は、水素素材科学分野でエネルギーと資源の非常に効率的な利用のための研究で、日

本の同僚とともに革新的な研究を始めることができました。有益なチャンスをごくださった松前国際友好財団の研究奨励金制度に感謝申し上げます。

日本での研究は、私の母国に豊富な専門的な知識をもたらしてくださいました。さらに、あなたがたは、私に日本と日本の人々（日本の大きな宝物）についてたくさん学ぶことのできる貴重な機会を与えてくださりました。

ところで、講演録を読んで松前国際友好財団の研究奨励金受給者で、近年において女性研究者の占める割合に気づき、大変驚きました。松前国際友好財団が研究者の世界で女性を支援してくださることは、大変私たちに勇気づけてくれます。



ヴィクトリア・アパンバン博士
(ナイジェリア)

Dr. Victoria Omolara Enobong
AKPAMBANG (Nigeria)

- ①アクレ工科大学 理学部化学科
上席講師
- ②2014年度来日
- ③広島大学 大学院生物圏科学研究科
教授 佐久川弘

2015年6月2日

まず、松前国際友好財団の皆様にご感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

私のことを覚えてくださりありがとうございます。また二つのプレゼントをお送りくださりありがとうございます。一つは、松前国際友好財団創立35周年記念シンポジウムでの著名な奨学者による講演録で、大変楽しく読ませていただきました。その講演録は私を大変勇気づけました。

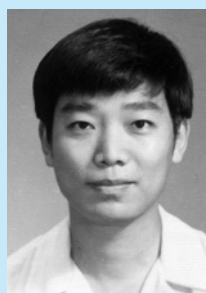
また、奨学者名簿をいただきましたが、これは松前国際友好財団の奨学者が家族のように相互の結びつきを高めるための、大変有効

な手段だと思えます。

松前国際友好財団がその活動を広げ、私を新しい文化へ、より大きい研究活動へ誘い、たくさんの新しい関係へと導いてくださったことに、これからもずっと松前国際友好財団に感謝し続けます。

松前国際友好財団が未来に向かって、さらに大きく歩み続けていくことを望みます。

ありがとうございます。



ソン・ジジュン (宋志軍) 博士
(中華人民共和国)
Dr. SONG Zhi Jun
(P. R. of China)

- ①コペンハーゲン大学病院 教授
- ②1989年度来日
- ③東海大学 医学部 教授 有森 茂

2015年6月19日

大変ご無沙汰しております。

松前国際友好財団から連絡をいただき、大変嬉しく思います。私の古い友人の皆様。私は、松前国際友好財団の支援で研究滞在了した日本での時間を忘れることはありません。現在、私はデンマークに住んでおり、元気で暮らしております。私は博士号をコペンハーゲン大学にて取得し、その後マイアミのフロリダ国際大学にてポスドクをいたしました。その後デンマークに戻り、デンマークの医師免許を得て、臨床微生物学の専門家になりました。私の妻も博士号を持つ医師であり、息子はコペンハーゲン大学を卒業し、現在はインシュリン製造の会社で働いています。

デンマークにお越しの際はどうぞ私に連絡してください。その時には喜んで歓待いたします。お元気で。

法人会員・寄付者の方々への メッセージ

- ① 現在の職業・地位等
- ② 受入研究機関と指導教官（現在）

編集・翻訳責任：松前国際友好財団



オルフミラヨ・ボンジュボラ・
オイエロ博士（ナイジェリア）
Dr. Olufunmilayo Gbonjubola
OYERO (Nigeria)

- ①イバダン大学 医学部高度医学研究
トレーニング研究所、研究員
- ②鹿児島大学 大学院医歯学総合研究
科附属難治ウイルス病態制御研究セ
ンター 教授 馬場昌範



ギブリル・エラミン・マッディ・
エラミン博士（スーダン）
Dr. Gibril Elamin MAGDI ELAMIN
(Sudan)

- ①ゲジラ大学 織物学部繊維・紙リサ
イクルセンター、センター長
- ②山形大学 大学院理工学研究科ソフ
ト&ウェットマター工学研究室
教授 古川英光

松前国際友好財団の様々な活動を支援するため
に偉大な貢献をしている寄付者の皆様に、この場
を借りて私より心から感謝を申し上げます。皆様
のご寄付は素晴らしい投資だと思います。そして、
私を受け入れてくださっている研究室で研究の機
会を与えてくださることに加えて、私のキャリア
の発展を援助しています。皆様のご寄付による支
援について、この研究滞在の成果である論文の謝
辞に記し、私の思い出に永久に残ることでしょ
う。Domo Arigato Gozaimasita.

研究を確立しキャリアを向上させるために、発
展途上国からの私たち科学者に対して、このよう
な機会を与えていただいたことに、私は松前国際
友好財団と寄付者の皆様へ深い感謝を表したいと
思います。この研究は、私の学生や大学、国にも
反映されようとしています。どうぞ素晴らしい仕
事をする松前国際友好財団の活動を戦略的に支
援し続けてください。

最後に、私の生徒、大学とスーダン政府からも、
心からの感謝をお受け取りください。



ワー・ワー・アン博士
(ミャンマー)
Dr. WAH WAH AUNG (Myanmar)

- ①ミャンマー保健省医学研究部門高度
分子研究センター所長（研究部門）
- ②北海道大学 人獣共通感染症リサ
ーチセンターバイオリソース部門
教授 鈴木定彦



ミレラ・コピヤル博士
(クロアチア)
Dr. Mirela KOPJAR (Croatia)

- ①オシエク大学 オシエク食品工学部、
准教授
- ②東京工業大学 バイオ研究基盤支援
総合センター 教授 櫻井 実

長年にわたり継続的にこの活動を支えるために
支援をされている寄付者の皆様および松前財団の
スタッフの皆様、そして創立者の松前重義博士に、
私より深い感謝の気持ちを表したいと思います。

松前国際友好財団の活動は、特に発展途上国か
らの研究者・科学者が日本人との良い相互理解を
得ること同様、科学的な分野での素晴らしい機会
を持つことを手助けしています。これまで以上の
日本と我が国との協力関係を築けるように心がけ
たいと存じます。すべての人々のために、より良
い世界にするために長く継続的にこの素晴らしい
プログラムと組織が続きますよう、寄付者の皆様
にもお願い申し上げます。

松前国際友好財団の活動を支援するすべての皆
様に感謝しています。私はいま、日本での生活と
文化について素晴らしい経験をしています。

私は本当に東京工業大学の櫻井研究室で素晴ら
しい時間を過ごしています。研究室の同僚の皆が
私を受け入れ、研究だけではなく私の日常生活に
おいても手を貸してくれています。

いま一度、すべての寄付者の皆様にお礼を申し
上げます。そして、他の人たちも私のように日本
での素晴らしい経験が持てるように、これからも
松前国際友好財団へのご支援が続くことを望んで
います。



奨学者国内研修旅行



本財団では、招聘する外国人研究者の日本滞在が各自の研究活動のみにとどまらず、日本の歴史、文化、自然、産業についても深く理解していただくことも目的として、国内研修旅行を毎年企画しております。今年6月末に実施された国内研修旅行には、13カ国から13名の研究者が参加されました。



◀宮島・獅子岩展望台より瀬戸の島々を望む奨学者

広島平和記念公園にて、奨学者各自が折った折り鶴を捧げる▼



お茶席を体験（姫路・好古園）▼



▲足湯を楽しむ奨学者（広島）



国内研修旅行に参加して

編集・翻訳責任：松前国際友好財団



サシャ・ゼイコビッチ博士
(ボスニア・ヘルツェゴビナ)

Dr. Sasa ZELJKOVIC
(Bosnia and Herzegovina)

- ①バニャルカ大学 数理学部化学科、助教授
- ②東京大学 大学院理学系研究科化学専攻 教授 長谷川哲也

国内研修旅行は大変よく組織され、非常に興味深く有益でありました。ホストである松前財団のスタ

ッフは、私たちが引率するためにベストを尽くしてくれました。

この旅行は、私が日本の歴史と文化遺産を知ることができる素晴らしい機会となりました。広島平和記念資料館で私は大変強い衝撃を受け、訪れる人々が決して忘れてはいけない人類の最も重要な悲劇と教訓をわち合いました。私たちはこの旅行の間に、他の研究者たちと知り合い、日本についての印象を交換するための機会を得ることができました。

国内研修旅行に参加して



ノディラリ・ノーマハマトフ博士
(ウズベキスタン)
Dr. Nodirali NORMAKHAMATOV
(Uzbekistan)

- ①ウズベキスタン科学アカデミー生物有機化学研究所、上席科学的研究員
- ②熊本大学 工学部物質生命化学科精密有機高分子研究室 教授 伊原博隆

私たちのこの旅行は、広島に投下された原子爆弾によって一瞬にして何万もの人々が生命を失った記憶から始まりました。現実としてこの結果を見ることはすごく悲しいです。皆がこの場所を訪れなければならないと思います。そして歴史の教訓を受け、これらの事実と記念の場所ではできる限り長く残していかなければなりません。国を再建することにおいて、日本人の団結を見ることは、どんなに誇らしいことでしょうか。そして、私たちはマツダ株式会社を訪れるチャンスを持ちました。マツダの自動車工場はなんとハードでクレバーな仕事でしょう！あなた方の周りで新しい自動車が「誕生」することは素晴らしいことです！そして、宮島の観光が最も私に感銘を与えました。こんなにも日本の自然は美しいとは、日本に来る前には想像もしませんでした。京都では、多くの日本の国宝、歴史的社寺、城を巡ったことはとても印象深いです。

5日間で、こんなにも多くの新しいことに出会えたことが信じられません。これは、国内研修旅行に関するすべてのことがよく計画されていたことを意味します。私たちは一度で日本の歴史と現在の生活に近づくことができました。私たちに日本の歴史と文化を身近に感じるチャンスを与えてくださりありがとうございます。



ファム・ダク・トリ博士
(ベトナム)
Dr. PHAM Duc Tri (Vietnam)

- ①ベトナム科学技術アカデミー熱帯生物学研究所 分子生物学科、研究員
- ②筑波大学 生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻 教授 江面 浩

この国内研修旅行を通じて、私はいっそう日本人の精神と特徴について理解できました。日本は豊かな文化と伝統と偉大な教育を持ちあわせています。

不幸な出来事にも立ち向かうサムライの精神が、日本人が常に明るい未来に向かう支点となるという

お手本でしょう。私が広島平和記念資料館を訪れたとき、破壊された死の光景は私を非常に悲しい、無限の悲しみにさせました。しかし展示の最後にあった写真は日本人の精神の証だと感じました。写真は昭和20年9月に撮影された「焦土に咲いたカンナの花」です。それは日本がなぜ、今、最も発展した国の1つになったかという理由です。私はこの旅行を通じてたくさんのことを学びました。今までよりもっと日本を愛するでしょう。

加えて、この旅行は違う国々から来た、楽しく愛すべき親切で大事な友人たちに出会うチャンスを与えてくれました。これは文化交流を経験することのできる稀な機会です。松前国際友好財団が与えてくださったこのチャンスに心よりお礼を申し上げます。



モーリス・ドゥクレ・
アウアファク博士 (カメルーン)
Dr. Maurice Ducret AWOUAFACK
(Cameroon)

- ①チャン大学 理学部化学科、上席講師
- ②富山大学 和漢医薬学総合研究所 資源開発部門天然物化学分野 教授 森田洋行

まずはじめに、2015年の奨学者たちが一堂に会する国内研修旅行に、ご招待いただいたことに松前国際友好財団に感謝いたします。

次に、広島から姫路を通り京都を訪問したことは大きな喜びでした。広島平和記念公園、原爆ドーム、平和記念資料館、宮島、姫路城、京都ギオンコーナー（伝統文化鑑賞）、奈良・京都の神社仏閣等、すべての訪問先はとても素晴らしかったです。他の研究者たちも同じ思いでしょう。同行してくれた松前財団のスタッフ、京都での通訳ガイドの方、バスの運転手を含めて、皆様からよくしてもらいました。他の経験では、旅行中の日本食がとても気に入りました。心から楽しい時間を過ごせたことに松前国際友好財団に感謝いたします。

松前国際友好財団の奨学者として、私より感謝の気持ちをこの活動を支援する寄付者の皆様に表したいと思います。今、皆様の善意によるご寄付が私自身の一部になったことを大変誇りに思います。1979年に松前重義博士により設計（デザイン）されたその素晴らしい研究奨励金制度のために、松前国際友好財団の活動へのご支援が長く続くことを願いながら、皆様のご健康とご成功をお祈りいたします。



ポーランド訪問

今年1月に本財団が開催したシンポジウムで講演されたリシャルド・ゴレッスキ教授（ポーランド共和国ヴァルミア・マズーリィ大学学長、ポーランド共和国上院議員、1988年度本財団奨学者）のご招待により、内田裕久本財団理事長がポーランドを訪問いたしました。



▲ゴレッスキ教授夫妻とともに



7月1日、ポーランド科学アカデミー附属物理科学研究所の高圧研究所で、所長らと討論。午後、オルシュティン市に到着。湖地方と呼ばれるこの地方の森の中にある、ゴレッスキ教授の自宅を訪問。2日朝、「日本-ポーランドエネルギーのグリーン化を考える」シンポジウムに参加、日本のエネルギー政策、不透明な現状、水素・再生可能エネルギーについて講演。午後、古代キリスト教の式典に則った名誉博士号授与式、教授資格授与式に参列。ゴレッスキ教授をはじめ、大学の理事等は赤いマントに白い毛皮を着用、教会コーラスをバックに式典。実に素晴らしい演出。式典中、議長を務めていたゴレッスキ教授が、「自分が今あるのは、松前国際友好財団のおかげで、アカデミックな世界に入ることができた。今日は財団から内田理事長を招待している」と会場で紹介。その後、大学の湖畔にあるレストランで、学生による民族舞踊と音楽。3日朝、ポーランド大学学長会議が開かれ、ポーランドの科学・高等教育大臣も参加。60名程度の参加者。ゴレッスキ教授の配慮で、財団の活動について15分ほど説明。ここでも「今の自分は松前国際友好財団のおかげである」と学長会議で紹介。またゴレッスキ教授は、財団の卒業生として喜んで松前国際友好財団の同窓会を計画したいとのこと。4日はキャンパスツアー、地元のバロック風教会の見学後、大学の迎賓館でレセプション。5日、帰国の途に。

公益財団法人 松前国際友好財団 評議員、役員(理事・監事)

(2015年7月1日現在／五十音順、敬称略)

● 評議員

氏名	他の役職等
佐々木政子	日本化学会フェロー、東海大学名誉教授
佐藤 和紀	東海大学名誉教授
松前 光紀	東海大学医学部教授、一般社団法人日本脳神経外傷学会理事、 一般社団法人日本脳神経外科学会社員
松前 義昭	学校法人東海大学理事長、学校法人東海大学副総長、東海大学工学部教授、 学校法人国際武道大学理事・評議員
宮田 敏男	東北大学副理事(研究担当)、東北大学研究推進本部副本部長、 東北大学大学院医学系研究科創生応用医学研究センター長
家森 幸男	武庫川女子大学国際健康開発研究所所長、京都大学名誉教授、 公益財団法人兵庫県健康財団会長
平田 光子	日本大学生産工学部マネジメント工学科／大学院生産工学研究科教授

● 役員

氏名	他の役職等
理事長 内田 裕久	(株)ケイエスピー代表取締役社長、東海大学工学部教授、 公益財団法人本田財団理事、公益財団法人神奈川科学アカデミー理事
常務理事 大森 悦郎	医療法人社団松和会監事、医療法人社団北桜会監事、医療法人社団樺会監事、 医療法人社団望星会監事
理事 小川 英光	東京福祉大学教育学部教授、東京工業大学名誉教授
理事 黒田和一郎	学校法人東海大学常務理事、学校法人東海大学経営企画室室長
理事 小松はるの	東海大学名誉教授
理事 遠山 文雄	東海大学名誉教授
理事 前島 巖	公益財団法人国際労働財団理事、東海大学名誉教授
監事 笠巻 孝嗣	弁護士(新橋綜合法律事務所)
監事 木本 雄一	学校法人東海大学 常勤監事

研究奨励金制度について

招聘期間：3カ月～6カ月

応募締め切り：招聘する年度の前年8月31日

◎応募者の資格

外国国籍を有しかつ次の事項に該当する者は、必要書類を添えて応募することができる。

1. 博士課程を修了した者、またはそれに準ずると本財団がみなした者。
2. 応募時の年齢が49歳以下であること。
3. 英語または日本語の会話能力が、研究活動に支障を来さない者。
4. 来日経験のない者。
5. 応募者は、応募者自身の国において確固たる地位・職業を持ち、招聘後は本国に戻る者。
6. 心身ともに健康な者。

◎研究分野

自然科学・工学・医学の研究分野は優先度が高い。

◎招聘期間および招聘予定数

各年度4月より3月迄の間で、滞在を希望する長さは応募者が、3カ月以上6カ月以内の間で決めて応募できる。各年度の招聘者数は約20名。

◎日本における研究機関

受け入れ研究機関については、国内のあらゆる大学の研究室、国公立研究機関、さらには各企業の研究所など、受諾可能な研究機関を自由に選択することができる。

◎研究奨励金の内容

研究滞在費……研究機関への指導料および研究に係わる経費・宿泊費・食費・交通費等の諸経費として支給。

旅行者保険……傷害死亡、後遺症、傷害治療、疾病死亡、疾病治療。

旅費……招聘者の母国居住地から東京間の最短経路のエコノミークラス・往復航空券を支給。

来日一時金……来日時の国内旅費補助、滞在開始時の宿泊施設確保に要する経費の補助等として支給。

※詳しくは「募集要項」をご覧ください。

お問い合わせは：

公益財団法人 松前国際友好財団

〒167-0043 東京都杉並区上荻4-14-46

TEL：03-3301-7600 FAX：03-3301-7601

URL：http://www.mif-japan.org/

E-mail：contact@mif-japan.org

本財団の活動にご理解とご協力をお願いいたします

1979年（昭和54年）松前重義博士の呼び掛けにより設立された松前国際友好財団は、人種、性別、宗教、思想を問わず、優れた学術的資質を備えた外国人研究者に対し日本での研究活動の機会を提供し、日本の学術発展に寄与するとともに国際友好親善に貢献することを、その目的としております。設立以来、本財団は多くの方の善意によるご寄付により支えられ、国からの公的資金や特定の機関・企業・団体など外部からの補助金、交付金、また事業活動による収入等を一切得ることなく今日まで活動を続けております。

今後も、これと同様皆様のご支援とご理解をいただきながら、活動を続けてまいります。本財団へのご理解とご協力のほどお願い申し上げます。